

1（２）多様な対象者のための学習講座

① 民具説明会（３） 「洗濯の歴史展」

令和元年 8 月 22 日～9 月 20 日の内の 24 日間

於：砺波民具展示室

うち、小学校向け説明会

○「洗濯の歴史展」展示写真



洗濯に利用した民具を集め、洗濯機のない時代の人々の暮らしを探り、生きる知恵や工夫を学ぶ。

布は古代から貴重品であり、自己表現する手段でもあり、人生儀礼において様々な節目節目で送り交わされた。衣類は何度もほどかれ洗い、仕立て直された。布は余すところなく使われ、風土と生業に合った衣類に仕立てられ、着用された。

洗濯は布を長く使うために、大切な作業であった。

洗濯機が普及する昭和 30 年頃までの「洗濯」を展示する。「洗い張り」など洗濯を詳しく説明展示する。「伸子」や「裁縫道具」、「反物とほどいた着物」なども展示し、来館者に衣類が使われた当時の暮らしと、洗濯について実感してもらう。

小学校への説明会では、洗濯の歴史では、昔はきれいに洗うことがとても難しいことだったことがよく理解され、感想に記していた。また、着物の洗濯方法にとっても驚いていた。

○来館者の感想

- ・洗剤の代わりに、灰やネムノキの葉を使用したと聞いて驚いた。どのくらいキレイになるのだろうか？
 - ・着物をほどくと、一枚の布になるのでびっくりした。それほど衣類を大切にしていた。昔の人は本当にものを大切にする生活をしたいたと思う。
- 50 年ほどまでまで、洗い張りをしていた家があった。それほど昔だと実感した。

○評価と課題（主催者側の感想）

- ・季節の小企画展示の開催も軌道に乗りつつある。入館者は 197 人。
- ・前回の展示とシリーズ物にすると、リピーターが増えるようである。今回も女性の来館者が多く、女性の日常に合致したテーマだったと言える。
- ・郷土学習の小学生向け説明会やで海外からの農業研修事業ので講演もあり、暮らしを考える大変に良いテーマであった。今後もこの展開方法を工夫する必要がある。

<https://1073shoso.jp/www/museum/detail.jsp?id=19686>